

企画セッション

「地球雪氷分野をとりまく国際・国内の研究推進体制の状況」

9月27日（月）16:00-17:50

東京エレクトロンホール宮城 会議室 602（B会場）

主催：有志（大畑哲夫（海洋研究開発機構）、東久美子（国立極地研究所）、他）

趣 旨

地球雪氷に関連する研究推進の議論と動きが国際的にも国内的にも活発になってきている。国際レベルについては、たとえば2007年に雪氷分野がIUGG/IAHS（国際水文学協会）から独立してIACS（国際雪氷圏科学協会）になり、またWMOでGCW（全球雪氷圏監視）計画が実施に移されようとしている。国内では地球温暖化連携拠点のWGにて温暖化影響の一つの重要分野として雪氷分野が取り上げられ、また雪氷研究が大きな比重を占める北極域についての国内体制が地球観測推進部会の作業委員会で検討されている。このように地球雪氷分野に関する動きが最近大きいながらも学会員にはあまり周知されていない、またこれらが学会員の研究発展にこれらが資することを考えて、紹介、情報交換および検討の場を設けた。研究自体ではなく、研究を実施する環境について考えるのも重要かと考える。なお、このような場で発表を希望する方がいましたら、大畑まで連絡願います（ohatat@jamstec.go.jp）。

プログラム

1. 最近の国内、国際情勢（大畑）
2. IUGG/IACS（東）
3. IACS（大畑）
4. WCRP/CliC（阿部、打診中）
5. IGOS Cryosphere（浮田、打診中）
6. GCW（大畑）
7. IPICS（本山、打診中）
8. IPY（未定）
9. IPA, IGS等の学会（未定）
10. IPCC（阿部、打診中）
11. 温暖化連携拠点における雪氷分野の議論（大畑、他）
12. 北極研究検討作業部会における議論（大畑）
12. その他および討論

<プログラムは、当日までに変わる可能性があります。>